東奥信用金庫

地域内企業の業況レポート
No. 134
2026年7～9月期

本レポートは、情報提供のみを目的とした当金庫の意見です。
当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいてこの資料は作成されていますが、この情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。

〒036-8182 弘前市大字土手町81
TEL 0172-33-8404 業務部 -2026.09.30-
HP https://www.shinkin.co.jp/toshin/

《今回調査のポイント》

● 7～9月期（今期）業況判断ＤＩ値 やや改善で推移

7～9月期の業況判断DI値は、前回調査比で7.6ポイント上昇し、▲3.1とやや改善した。前回予想値（▲16.2）も上回る結果となった。項目別では、売上・受注で2.1ポイント上昇の3.8、売上数量が0.7ポイント上昇の1.4、利益でも6.6ポイント上昇の▲6.9と、すべての項目で改善となった。

今期DI値は前期に比べ改善し、昨年同期（▲6.2）も上回った。ねぷたまつりやお盆等各種イベントにより飲食業、小売業、製造業は改善が見られ、サービス業は横ばいとなる。リフォーム工事を中心に建設業も改善し、大きな変化なく不動産業は横ばいとなった。一方で、早生種のりんご販売が始まるが低調推移した卸売業、りんご配送が一区切りした運輸業は悪化となった。前期懸念された原材料不足は緩和されたが、引き続き物価高騰や人件費、燃料費上昇の影響が大きく経営課題となっている。



業況お天気図

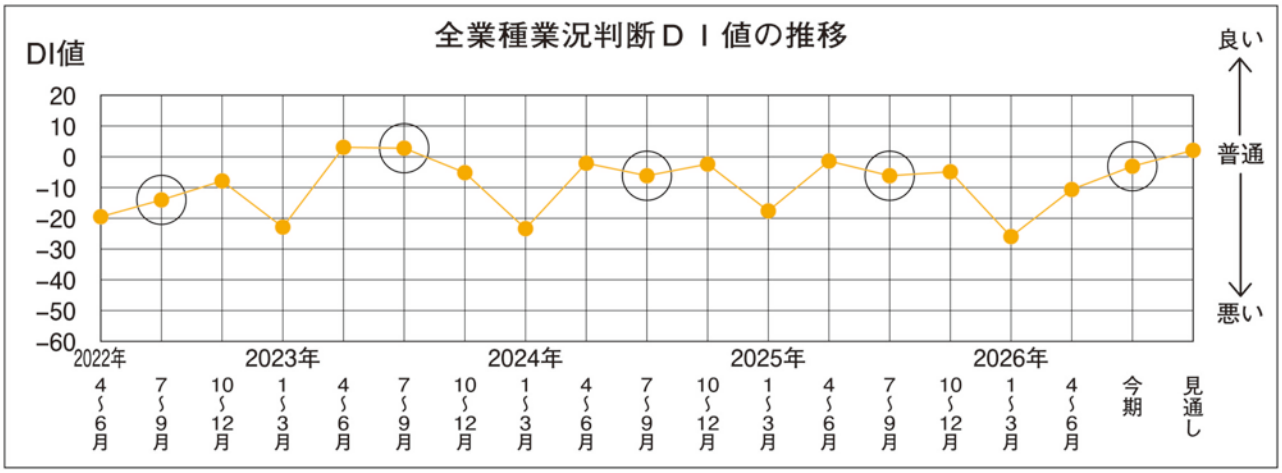
● １０～１２月期（来期）各項目別ＤＩ値 やや改善を見込む

10～12月期の見通し業況判断DI値は、今回調査比で5.2ポイント上昇し、数値は2.1とやや改善する見通しとなった。項目別では、売上・受注で1.0ポイント低下の2.8、売上数量が0.7ポイント上昇の2.1、利益でも3.8ポイント上昇の▲3.1と、2項目で改善し、1項目で悪化となった。

業種別DI値は、りんご販売の本格化により運輸業、卸売業、降雪前に一定の受注確保された建設業、クリスマス等のイベントもあり製造業、国スポ開催、秋の行楽シーズンによりサービス業は改善見通しである。その他の業種においては各種イベント効果もなく、降雪期を迎えるため悪化の見通しとなる。引き続き人件費、仕入価格高騰、燃料費の高騰などが経営環境に与える影響は大きく、コスト上昇への対応が重要な課題となっている。



業況予想お天気図



お 天 気 図

好調 ←  → 低調

（お天気図は、景気指標を総合的に判断して作成したものです。）

全業種総合

回答企業数290企業（回答率100%）

概　況

～総合的業況判断ＤＩ値 やや改善で推移～

総合的業況判断ＤＩ値は、前期比7.6ポイント上昇し、▲3.1とやや改善となった。

業種別での業況判断ＤＩ値は、飲食業が31.8ポイント上昇の50.0、小売業が19.0ポイント上昇の▲3.6、製造業が10.0ポイント上昇の▲10.0、建設業が1.6ポイント上昇の▲3.2、サービス業が横ばいの2.4、不動産業も横ばいの9.1、運輸業が16.6ポイント低下の▲8.3、卸売業が11.5ポイント低下の▲50.0となった。4業種が改善し、2業種は悪化、2業種が横ばいとなった。

～経営上の問題点～

業種全体で「材料仕入価格の上昇」161先、「売上の低迷・減少」96先、「人員不足」90先、「利幅の縮小」57先、「経費の増加」55先と上位を占めた。

前回調査比、「材料仕入価格の上昇」は9先減少、「売上の低迷・減少」は10先増加、「人員不足」は4先増加、「利幅の縮小」は15先減少、「経費の増加」は14先減少となった。

設備投資計画では、「予定あり」とした企業が20先で前期比7先減少、設備投資実施予定割合は6.9%で前期比2.4%減少となった。業種別では、運輸業（土地・その他）16.7%、飲食業（建物）13.6%、不動産業（土地）9.1%、卸売業（建物・機械）7.7%、サービス業（土地・その他）7.1%、建設業（建物・機械）6.3%、小売業（建物・機械等）6.0%、製造業は設備投資計画有りの事業者が無かった。

資金繰りＤＩ値は、前回調査比で7.9ポイント改善の▲3.5となる。今期借入した企業は18.3%と前回調査時（15.2%）より3.1%増加となった。

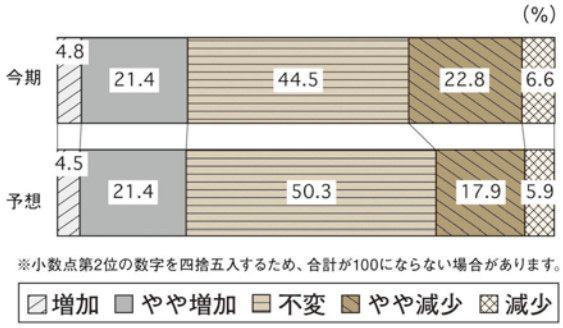
来期の見通し

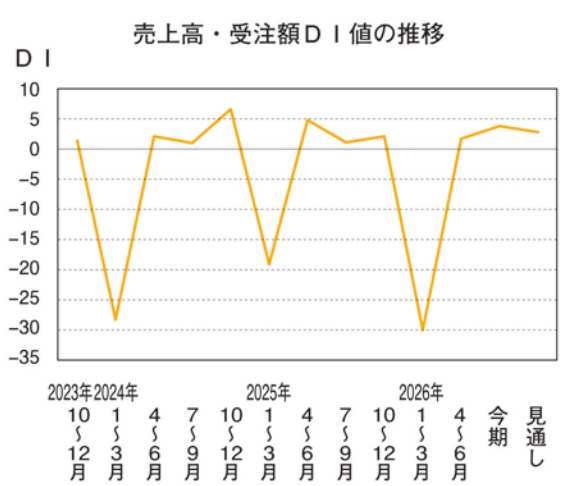
～総合的業況判断ＤＩ値 やや改善の見通し～

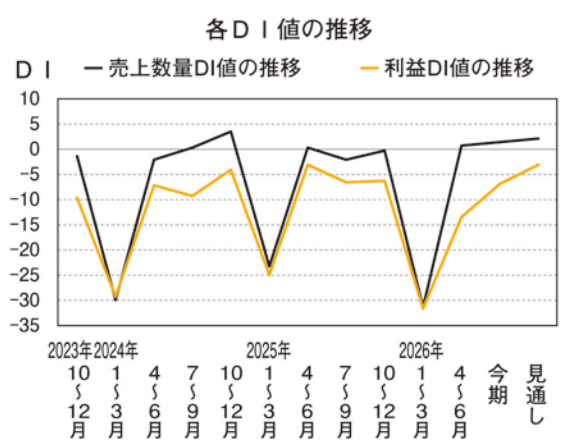
各業種の見通し業況判断ＤＩ値は、今回調査比5.2ポイント上昇し、数値は2.1とやや改善する予想となった。

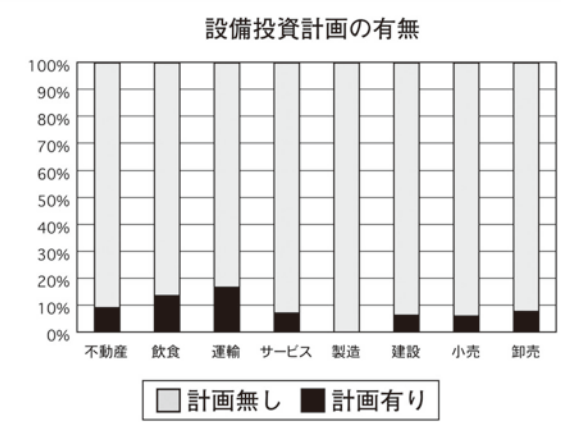
業種別では、運輸業が50.0ポイント上昇の41.7、卸売業が42.3ポイント上昇の▲7.7、建設業が15.9ポイント上昇の12.7、製造業が10.0ポイント上昇の0.0、サービス業が7.1ポイント上昇の9.5、飲食業が54.6ポイント低下の▲4.6、不動産業が36.4ポイント低下の▲27.3、小売業が2.4ポイント低下の▲6.0となり来期の見通しは、5業種が改善し、3業種は悪化となった。

今期資金手当てした先が18.3%、今後資金手当て等借入を予定している先は16.9%となっている。









卸売業　回答企業26企業

概　況



～業況判断ＤＩ値 悪化で推移～

今期の業況判断ＤＩ値は、前回調査比で11.5ポイント低下し、▲50.0と悪化した。前回調査時の予想値▲46.2も下回る結果となった。項目別では、売上・受注で23.1ポイント低下の▲30.8、売上数量が23.0ポイント低下の▲26.9、利益でも11.5ポイント低下の▲50.0と、すべての項目で悪化となった。

主要産業であるりんごは、例年売上が減少する時期であり低調推移。早生種の販売により、産地、消費地ともに低価格となっており厳しい状況となる。

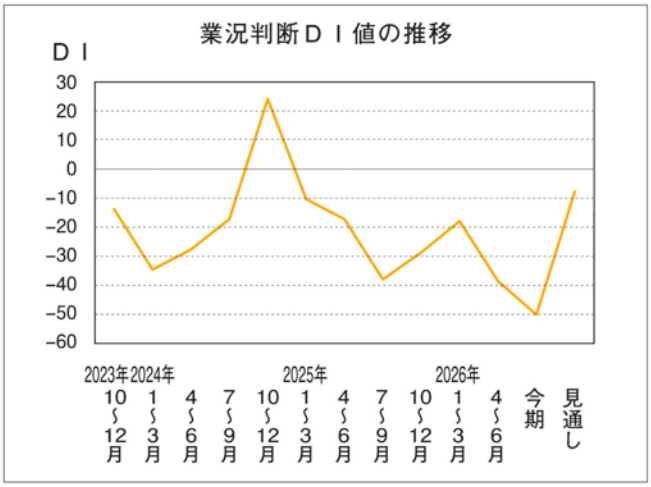
来期の見通し



～業況判断ＤＩ値 大幅改善の見通し～

来期の見通し業況判断ＤＩ値は、今回調査比で42.3ポイント上昇し、指数は▲7.7まで大幅改善の見通しである。項目別では、売上・受注で38.5ポイント上昇の7.7、売上数量が38.4ポイント上昇の11.5、利益でも53.9ポイント上昇の3.9と、すべての項目で大幅改善の見通しとなった。

りんごは主力品種の販売が始まるため売上、販売数量、利益とも増加する見通し。一方で輸送費等経費増加を懸念する事業者もある。



分野別の状況

～総合的業況は悪化で推移～

酒類卸売業では、ねぷたまつりやお盆、レジャー時期によりアルコール需要増加し増収となったが、人件費や配送費等経費増加により減益となった。

米穀卸売業では、高値仕入の在庫販売となり価格低下から利幅縮小。令和8年産新米の取扱いを開始したが相場は想定を下回っており厳しい販売環境が続いた。

食料品卸売業（水産物）では、悪天候による漁獲不足により売上は苦戦。飲食店の客足低迷等もあり販売数量と利益も減少。

小売業　回答企業84企業

概　況



～業況判断ＤＩ値 改善で推移～

今期の業況判断ＤＩ値は、前回調査比で19.0ポイント上昇し、▲3.6と改善した。前回調査時の予想値▲21.4も上回る結果となった。項目別では、売上・受注で21.5ポイント上昇の2.4、売上数量が20.2ポイント上昇の▲1.2、利益でも13.1ポイント上昇の▲13.1と、すべての項目で改善となった。

ねぷたまつりやお盆、各種イベント等の影響、および弘前市プレミアム商品券取扱店では売上等好調推移となった。酒類販売業等お土産用として国スポ開催による恩恵を受けている事業者もいる。

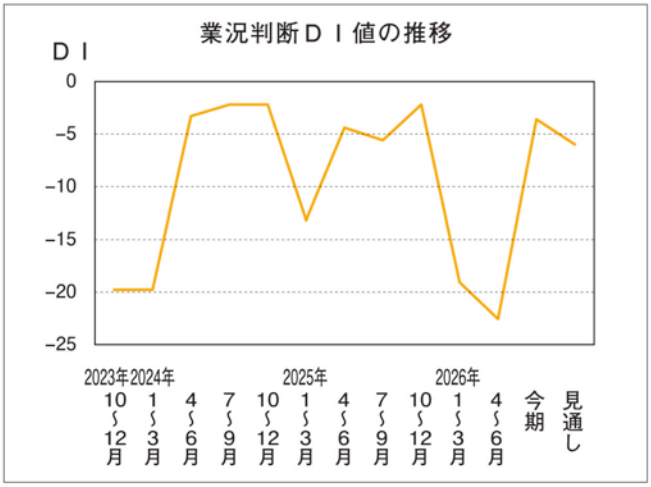
来期の見通し



～業況判断ＤＩ値 やや悪化の見通し～

来期の見通し業況判断ＤＩ値は、今回調査比で2.4ポイント低下し、指数は▲6.0とやや悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で6.0ポイント低下の▲3.6、売上数量が7.1ポイント低下の▲8.3、利益では横ばいの▲13.1と、2項目でやや悪化し、1項目で横ばいの見通しとなった。

燃料等販売業は需要期を迎え期待されるが、その他業種は、各種イベントも落ち着き売上等も落ち着く見通し。12月末で使用期限を迎える弘前市プレミアム商品券取扱店では引き続き売上増加を期待している。



分野別の状況

～総合的業況は改善で推移～

青果物販売では、夏季果物中心に前年並みの売上となった。

菓子販売業では、売上が落ち着く時期であるがお盆期間に贈答用箱菓子の購入が増えたことで一定の売上確保。来期はハロウィンやクリスマス等各種イベントに期待している。

コンビニでは、各種イベント等もあり来店客数増加し売上も伸びているが、人件費等経費増加が利益を圧迫している。

建設業

回答企業63企業

概　況

～業況判断ＤＩ値 やや改善で推移～

今期の業況判断ＤＩ値は、前回調査比で1.6ポイント上昇し、▲3.2とやや改善した。前回調査時の予想値▲15.9は上回る結果となった。項目別では、売上・受注で6.3ポイント低下の3.2、売上数量が11.1ポイント低下の0.0、利益では7.9ポイント上昇の▲4.8と、2項目で悪化し、1項目で改善となった。

住宅建築業は、新築は減少傾向であるが、リフォーム工事等受注は安定推移している。資材価格高騰は続いており、適正価格設定により利益確保に努めている。

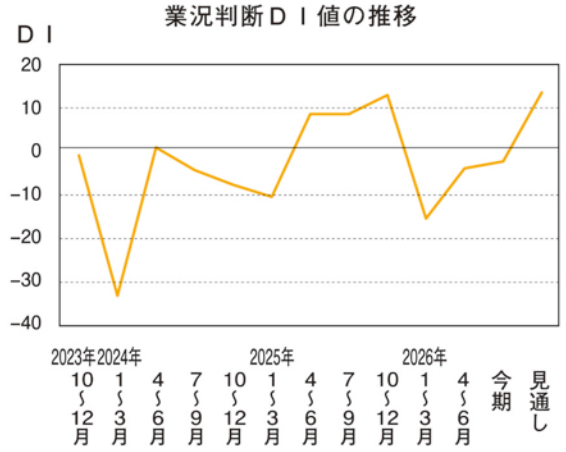
来期の見通し

～業況判断ＤＩ値 改善の見通し～

来期の見通し業況判断ＤＩ値は、今回調査比で15.9ポイント上昇し、数値は12.7と改善の見通しである。項目別では、売上・受注で横ばいの3.2、売上数量が4.8ポイント上昇の4.8、利益では6.4ポイント上昇の1.6と、2項目で改善し、1項目は横ばいの見通しとなった。

住宅建築業では一定の受注確保しており安定推移見通し。その他業種においても降雪前の受注増加も見込まれている。

業況判断ＤＩ値の推移



分野別の状況

～総合的業況はやや改善で推移～

造園工事業では、材料費高騰により受注、利益ともに前期より減少した。来期は雪囲い等もあり受注確保されている。

板金塗装業では、ピーク時に比べ材料仕入は安定してきたが、価格高騰は継続しており、利益を圧迫している。

土木工事業、管工事業では、公共工事・民間工事ともに工事受注については一定数確保。原材料費高騰および人件費等その他経費増加により適正価格設定し利益確保に努めている。

製造業

回答企業30企業

概　況

～業況判断ＤＩ値 やや改善で推移～

今期の業況判断ＤＩ値は、前回調査比で10.0ポイント上昇し、▲10.0とやや改善した。前回調査時の予想値▲26.7も上回る結果となった。項目別では、売上・受注は3.4ポイント上昇の6.7、売上数量が6.6ポイント上昇の3.3、利益でも16.6ポイント上昇の3.3と、すべての項目で改善となった。

食料品製造業では、お盆や各種イベントもあり一定の売上、売上数量を確保するも、引き続き原材料費、人件費の高騰により利益を圧迫しており対応に苦慮している。

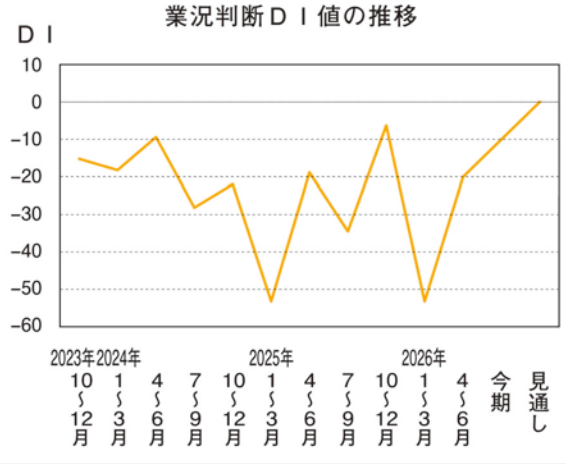
来期の見通し

～業況判断ＤＩ値 やや改善の見通し～

来期の見通し業況判断ＤＩ値は、今回調査比で10.0ポイント上昇し、数値は0.0とやや改善の見通しである。項目別では、売上・受注で3.3ポイント上昇の10.0、売上数量が6.7ポイント上昇の10.0、利益では6.6ポイント低下の▲3.3と、2項目で改善し、1項目で悪化の見通しとなった。

食料品製造業では、クリスマス、お正月等を控え、今期同様の売上確保の見通し。価格転嫁等により経費増加にも対応し利益確保に努める。

業況判断ＤＩ値の推移



分野別の状況

～総合的業況はやや改善で推移～

鉄鋼加工製造業では、民間工事および公共工事の受注安定しており、売上確保となるが、経費増加により利益を圧迫している。

木材、木製品製造業では、木材の価格高騰、新築住宅需要の低迷により売上が伸び悩む。加えて人件費等の経費増加により厳しい状況であった。来期は収穫時期による農家からのパレット注文が増加見通しであり安定推移する見通し。

衣料・縫製業では、夏物衣料の需要低下や販売単価の下落等により売上が減少。原材料費の高騰もあり利益を圧迫している。

サービス業

回答企業42企業

概　況

～業況判断ＤＩ値 横ばいで推移～

今期の業況判断ＤＩ値は、前回調査比で横ばいの2.4となった。前回調査時の予想値0.0は上回る結果となった。項目別では、売上･受注で2.4ポイント上昇の11.9、売上数量が4.8ポイント低下の11.9、利益では4.8ポイント上昇の7.2と、2項目で改善し、1項目で悪化となった。

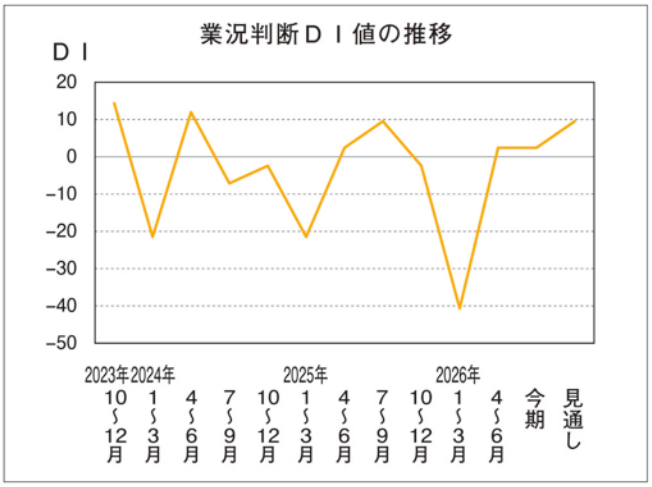
旅館、ホテル業では、ねぷたまつり等イベント多数開催され、観光客増加に伴い、宿泊客数も増加し増収増益となった。

来期の見通し

～業況判断ＤＩ値 やや改善の見通し～

来期の見通し業況判断ＤＩ値は、今回調査比で7.1ポイント上昇し、数値は9.5とやや改善の見通しである。項目別では、売上･受注で2.4ポイント低下の9.5、売上数量が4.8ポイント低下の7.1、利益では2.3ポイント上昇の9.5と、2項目で悪化し、1項目で改善の見通しとなった。

旅館、ホテル業では、国スポ開催、秋の紅葉シーズンにより宿泊客数確保を見込むが、降雪による宿泊客の減少も見込まれるため小幅な改善となった。



分野別の状況

～総合的業況は横ばいで推移～

自動車整備、鈑金業では、車検依頼や修理依頼は例年並みに確保。来期はタイヤ購入、交換依頼が増加する見通し。

理容、美容業では、固定客の売上確保され例年並みに推移した。溶剤等の価格高騰は継続しており利幅縮小、価格改定も検討している。

農機具修理業では、今期は農繁期が一段落し、例年通り売上は減少した。来期は収穫期に入り農機具のメンテナンス依頼等売上増加が期待できる。

運輸業

回答企業12企業

概　況

～業況判断ＤＩ値 悪化で推移～

今期の業況判断ＤＩ値は、前回調査比で16.6ポイント低下し、▲8.3と悪化した。前回調査時の予想値16.7も下回る結果となった。項目別では、売上･受注で58.3ポイント低下の▲33.3、売上数量が50.0ポイント低下の▲33.3、利益でも33.3ポイント低下の▲25.0と、すべての項目で大幅悪化となった。

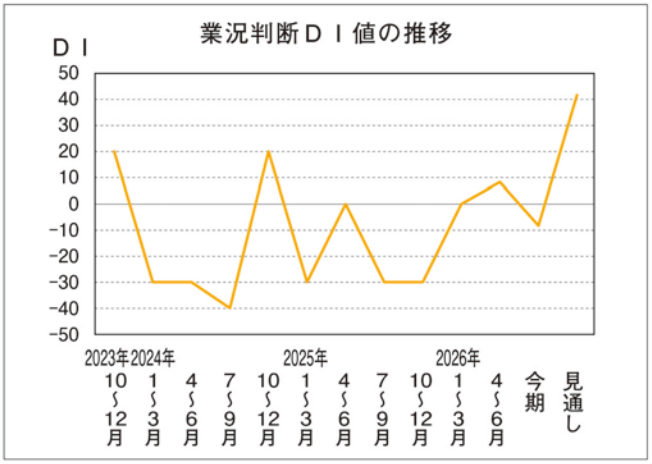
貨物運輸業では、りんご配送が一区切りとなり売上、輸送量は減少した。また、燃料費や人件費の高騰の影響もあり利益を圧迫している。

来期の見通し

～業況判断ＤＩ値 大幅改善の見通し～

来期の見通し業況判断ＤＩ値は、今回調査比で50.0ポイント上昇し、数値は41.7と大幅改善の見通しである。項目別では、売上･受注で75.0ポイント上昇の41.7、売上数量が75.0ポイント上昇の41.7、利益でも66.7ポイント上昇の41.7と、すべての項目で大幅改善の見通しとなった。

貨物運輸業では、主力となるりんご輸送が本格化することから、売上、輸送量、利益ともに増加見通し。



分野別の状況

～総合的業況は悪化で推移～

旅客運送業では、ねぷたまつり等により安定した売上を確保した。燃料価格についても若干の変動に止まり大きな影響はない。

建設資材運送業では、受注減少する時期であり業況は悪化。来期は受注増加が見込まれるため業況は上向く見通し。燃料価格は高止まりしており経費削減により利益確保に努める。

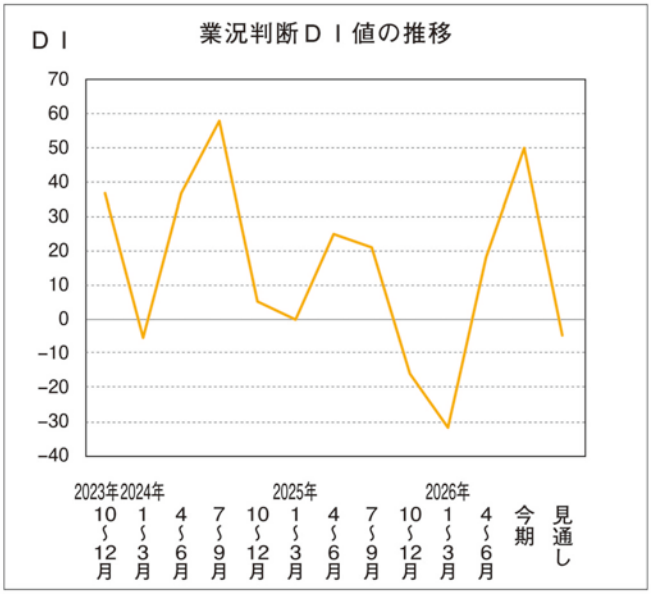
飲食業　回答企業22企業

概　況

～業況判断ＤＩ値 大幅改善で推移～

今期の業況判断ＤＩ値は、前回調査比で31.8ポイント上昇し、50.0と大幅改善した。前回調査時の予想値0.0も上回る結果となった。項目別では、売上・受注で13.6ポイント上昇の50.0、売上数量が13.7ポイント上昇の45.5、利益でも9.1ポイント上昇の22.7と、すべての項目で改善となった。

ねぷたまつり等各種イベント、各地域の商品券発売の影響もあり好調に推移した。



来期の見通し

～総合的業況判断は大幅悪化の見通し～

来期の見通し業況判断ＤＩ値は、今回調査比で54.6ポイント低下し、▲4.6と大幅悪化の見通しである。項目別では、売上・受注で63.6ポイント低下の▲13.6、売上数量が59.1ポイント低下の▲13.6、利益でも50.0ポイント低下の▲27.3と、すべての項目で大幅悪化の見通しとなった。

国スポ開催、忘年会シーズンに期待するも、仕入価格、人件費増加等に伴う経費増加の影響による利益圧迫を懸念する声が多い。

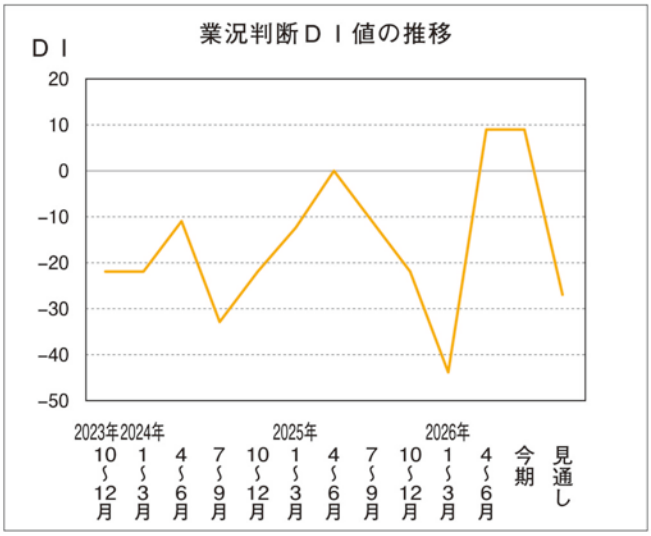
不動産業　回答企業11企業

概　況

～業況判断ＤＩ値 横ばいで推移～

今期の業況判断ＤＩ値は、前回調査比で横ばいの9.1となった。前回調査時の予想値▲9.1は上回る結果となった。項目別では、売上・受注で横ばいの9.1、売上数量が9.1ポイント上昇の0.0、利益では9.1ポイント上昇の9.1と、2項目でやや改善し、1項目で横ばいとなった。

不動産賃貸業は安定推移した。仲介業は例年並みに推移し、新築価格高騰に伴い建売住宅販売は好調に推移した。



来期の見通し

～総合的業況は大幅悪化の見通し～

来期の見通し業況判断ＤＩ値は、今回調査比で36.4ポイント低下し、数値は▲27.3と大幅悪化の見通しである。項目別では売上・受注で27.3ポイント低下の▲18.2、売上数量が9.1ポイント低下の▲9.1、利益でも27.3ポイント低下の▲18.2と、すべての項目で悪化となった。

秋以降は例年、仲介、売買ともに問い合わせが減少することから業況悪化見通しとなる。

調 査 要 領

●調査時期　2026 年 9 月下旬
●調査地域　当金庫営業区域7市町村（弘前市、黒石市、平川市、五所川原市、大鰐町、藤崎町、田舎館村）
●調査方法　上記地域内290社から当金庫営業店の調査員による聞き取り調査。
●分析方法　各質問事項で、変化なしとした回答部分を除いて、「増加（上昇）」「やや増加（やや上昇）」したとする回答と、「減少（下降）」「やや減少（やや下降）」したとする回答の構成比との差（判断D.I.）を中心に分析を行った。